



研究者になることを迷う若者へ

昨今、若者が研究者になろうとしない、大学院に入らない、博士課程に進まないという話を聞きます。就職難など多くのマイナス面（つらいこと）が見えて、生涯の職業として研究業を選ばなくてギャンブルだ！と思うのも理解できます。

どうにかなるから博士課程に進んでがんばってみたら？と、無責任に勧めるのは簡単ですが、平坦な道でないことは先輩の背中を見ると明らかです。しかし、ここではプラス面（いいこと）を書き並べて、研究者になるか悩んでいる学生、このまま続いているか悩んでいる院生、この道に進んだことを後悔しているポスドクの方々が、研究を続けることで得られる至福の瞬間を思い起こしてくれたらと思います。ここでの“研究”とは、本誌読者の多くが関わる実験系自然科学の研究を指しています。

結果が出る瞬間：実験系研究の醍醐味は、やはりこれに尽きます。難しい実験、疲れる実験、お金のかかる実験、飽きる実験などでも、期待通りの結果や予想外に面白い結果が出た瞬間は格別です。それを目の当たりにしているのは世の中で自分だけ。研究者の特権です。人によって頻度は違いますが、その瞬間は必ず訪れます。

ひらめく瞬間：思うような実験ができない、再現性が悪い、結果が解釈できない、次の一手は何かなど、悩む種はたくさんあります。しかし、しっかり悩み抜けば何かひらめきます。それが正しかったとあとでわかると気分爽快です。いい考えが浮かばなかったら、誰かに相談するのが効果的です。研究が進む駆動力になります。

論文のアクセプト：英語論文を書き上げることは、大変な苦勞（苦痛）です。それがゆえ、査読者の厳しい、時に不条理な要求に応えたあと、I am pleased to inform you……で始まるメール（いろいろなパターンがあります）を受け取るのは格別に嬉しい瞬間です。

学会発表：日頃の努力の成果を仲間やライバルに見てもらえます。称賛の拍手や言葉をもらったり、鋭い助言で研

究が飛躍することもあります。日本各地や海外に行けるといふ楽しみも大きいですね。

グローバルを実感：国際的な仕事をしている実感をもてます。会ったことがなくても、論文著者に親近感もてたり、ライバル心ができたり。会う機会もできます。

科学史に残る：成果を論文や特許などの形に残せば、それは未来永劫、残ります。自分がこの世からいなくなっても、その足跡は科学史に刻み込まれます。

時間が自由：研究生活には、実験手順を思案する時間、実験する時間、データ整理の時間、論文を読む時間、書く時間、議論する時間、考える時間など、いろいろな時間があり、ある程度自分で配役できます。何もしたくない時は考えているフリをすればいいですし、デート中に研究のことを考えるのも自由です。

服装が自由：ネクタイ、スーツ、ハイヒール不要で、好きなスタイルで過ごせます。

飲み会：さまざまな名目で飲み会があります。ボスがいない会では皆で愚痴を言ってストレス発散することもできます。あっ、これは業種に関係ない楽しみかもしれませんね。

偉い人と話せる：大先生と話せる機会があります。テレビで見る有名な先生や業界の重鎮とされる先生達と、同じ目線で議論することができます。

有名になるかも：研究成果が新聞等に掲載ことがあります。テレビに出ることもあります。自分の成果が世間に知られることはいいことですね。親孝行になりますし、親戚も喜んでくれるでしょう。

ノーベル賞をもらえるかも：誰にでも大発見をする可能性があります。ノーベル賞を狙える職業って、そんなにありませんよ。ノーベル賞とまでいなくても、ほにゃらら奨励賞なども十分に嬉しいものです。

ありきたりのことを並べるだけで、字数制限を大きく超えてしまいました。まだまだたくさんのプラス面があります。いま直面しているマイナス面と差し引きして、プラスが残れば研究業を続けたらいいのではないのでしょうか。もちろん、研究業を続けるなら、成果を世に還元する意気込みや、いつか何かに役立つはずという信念は必要です。もしも差し引きしてマイナスが残るなら、研究業に見切りを付け、新たな生き方を選びましょう。それでも、今までの研究経験は必ず役に立ちます。

(タートルズ)